

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム愛乃郷
(ユニット名)	1階
所在地 (県・市町村名)	長崎県北松浦郡佐々町羽須和免927番地
記入者名 (管理者)	朝永 智恵
記入日	平成 20年 7月 21日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	敬愛をもつとくに利用者一人一人の思いを大切にしている。	○	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	安全・安心な生活の支援の継続に努力しているものの、理念に対する意識付けが足りていなかったと思われる。	○	理念に対する意識向上と実践に取り組んでいきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念を掲げているが、その理念を家族の方々や地域の人々に浸透していないように思われる。	○	理念に対する意識向上を担った上で家族の方々へ浸透できるように努めていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	挨拶程度の声掛けだけであって、気楽に立ち寄ってもらえるような付き合いがまだ不十分だとも思われる。	○	挨拶だけでなく、ホーム内での行事等への参加の働きかけや、ホーム内見学が出来るような、オープンな付き合いが出来ていけるように取り組みたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の人々との関わりが少なくなってきたので、地域活動の広報誌を読んで頂いたりすると、繋がりが感じられるように思う。	○	地域活動に参加までは至らなくても見学等に出かけると、閉鎖的にならずに良いと思っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	研修等に参加し、今後につなげていく取り組みをおこなっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価を行っているが、自己評価も改めて分かる部分や反省すべき点が見えてくるので、その都度改善に取り組むようにしている。	○	改善できることから、具体的に実践につなげていけるように努力したいと思う。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度施行し、地域の方や、家族の方等、参加して頂き、意見交換を交え会議の内容議事録を回覧し、向上に向けて活かしている。	○	今後も2ヶ月に1度行っていきたい。管理者・経営者以外もスタッフ(自由)参加してもいいのでは?と思う。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護認定申請手続きで面会する時や、食事の栄養面でのサポートで栄養士の方が来て下さる時がある。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度を必要としている人が入居者の中におらず、制度を深く理解していない。	○	成年後見制度について、学ぶ機会があれば、必要な人への理解がもっと深まると思うので、福祉権利等の研修にも参加したい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待以外にも言葉掛けによる暴言など、見過ごされる事がないようにしている。利用者の身体観察を行っている。	○	高齢者への虐待は、絶対にあってはいけない事なので、虐待が見過ごされる事がない為に知識を深める研修に参加したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居希望者、又はその家族の方には、必要事項をわかりやすく説明を行い、納得を得た上で、契約・解約に至っている。</p>	○	<p>分かりやすく、パンフレット等を利用し、理解が得られ、トラブル等がないように対応に努めたい。又、家族の方からも意見や要望も必ず聞く。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の様子を見ながら、ゆっくりと話をし、不満などないか？会話の機会を持って意見を聞き、その解決策を職員で話し合っている。</p>	○	<p>利用者が思っている事が、いつでも言える様な雰囲気作りと、気持ち良く生活して頂けるように些細な事も見過ごさないように努めたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>2ヶ月に1度の広報誌と面会時等、現状報告を行い、緊急な場合は、電話連絡を行っている。</p>	○	<p>職員の紹介や異動・担当等の紹介も家族の方に伝えると、もっと安心して頂けると思う。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設けている。</p>	○	<p>家族の方、利用者に対して、定期的に意見を書いたり、言ったりして頂く機会があれば、職員も参考になる。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>つきに1度の定例ミーティング時には、利用者以外にも職員間の意見交換も言える様にしている。</p>	○	<p>職員はいつでも疑問に思っている事や提案していききたい事柄には、話が出来るように努めたいと思う。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>その状況に応じた対応や、急な勤務変更の調整に日々努めている。</p>	○	<p>要望に柔軟な対応が出来る為には前もって計画的な確保が必要と思われる。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>なるべくなら馴染みの職員による支援を受けるのが一番であるが、離職者が出た場合等、バランスのとれた職員間も必要と思われる。利用者へのダメージを防ぐ為に常にコミュニケーションをとるように努めている。</p>	○	<p>ユニットが別であっても、全員の利用者の方と触れ合いを持ち、例え異動になっても変わりなくケアが出来ればと思う。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会も多数あり、個人的に受けた研修や講習も受けさせてもらっている。		研修に参加した職員による勉強会や報告を現状通り取り組んでいきたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会があり、2ヶ月に1度のペースで開催され、交流や勉強会を行っている。常に参加している。	○	今後は相互訪問等の活動も行い、見学を行う事により、互いのケアの質が上がると思われる。(刺激となって)
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレスを軽減する為には、何でも話せる環境が大切だと思っている。有給休暇の活用がうまくできていない気がする。	○	職員のプライバシーにも配慮しつつ、気楽に話ができるように努めたい。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修等を通じて、得た知識が実践し、活かされると良いと思う。向上心を大切にし常に前向きな姿勢は大切だと思っている。	○	施設内での勉強会等の機会を増やし、個々の努力が実績に繋がるようになると良いと思っている。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	不満・不安な事はなかなか発せられない為、行動等に注意を行い、後は話を聴くように行っている。解決できるよう、対策行っている。	○	今以上に、利用者への要求や様々な想いをよく聴くように努めたい。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の方から今後の不安等聞かれる時があるが、安心して頂く・不安を取り除く為、職員も今後の事について、話し合い努力している。	○	面会時以外、あまり話しを聞く機会がない為、職員・家族の方が一緒に参加できる行事等に取り組んでいけたら良いと思う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の方の思いや希望を考え、職員で話し合い、出来る限りの対応を行っている。	○	カンファレンス等を行い、必要とされている支援の実現に向け努力している。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家庭での生活スタイルを聞き出し、それと同様のケアを行っている。慌てず時間をおいてゆっくり行っている。	○	職員間に同じ気配りが出来るよう正確な情報の共有が必要と思われる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	同じ目線で考え、心のケアも含め同じ思いを共有する事が出来るように努力している。	○	自分の思いを押し付ける事なく、楽しく生活できるように常に努力が必要と思われる。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ほとんど面会時しかお話出来ず。しかし、近況報告等を常に報告しあっている。	○	家族の方々との信頼関係も必要な事であるから、面会時だけでもよくコミュニケーションを取っていくように努めていきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の方々や利用者からのクレームが聞かれた場合、速やかに対応行っている。支援できていると思われる。	○	家族の方々、利用者が気軽に声をかけられるように今までと同様に努めていきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の友人・知人の面会もあり、しかし馴染みの場所、例えば買い物先等々の支援が不十分である。	○	馴染みの場所への支援を行い、昔を思い出して頂いてほしい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一緒に作業等伝えるよう対応行う事により、小さな事でも支え合っておられるように見える。	○	これからも現状通り、作業や皆さんとの共同作業を行い、支え合ってもらえるような配慮行っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	終了した後、病院への面会・お見舞い行っているが、家族の方との関係がそのままの状態になってしまっている。	○	時々連絡を取り、双方の近況報告を行う事も大事だなと感じた。これを機に行っていけたらと思う。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を尊重し、希望をかなえる努力を行っている。	○	集団生活の中で、自宅に居る時と全く同じようには困難であるものの、希望があれば応じる努力はしたいと思っている。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に話を聞き、生活環境などの把握をするように努めているものの、不十分である。	○	加齢に伴って趣味・嗜好の変化もあると思っている。定期的に経過の整理をすると良いと思う。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎朝のバイタルチェックを通し、健康状態を把握して一日の動きや行動のチェックを行っている。	○	職員の観察力を記録として気づきを残しておくよう、今までと同様行っていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人がより良く暮らす為に職員同士が話し合い、意見やアイデアを発言し、介護計画に反映していると思う。	○	家族の方の意見も聞き、介護計画に反映していきたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じての見直しと、状態変化が生じた場合は、その時点で職員と話し合い、計画の立て直し等、行っていると思う。		それを、家族・利用者にも説明をし、取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・申し送り帳等で情報を共有している。	○	小さな気づきでも介護計画に活かすことができる為、記入しておく事が大事である為、取り組んでいきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームだけでなく、デイサービスとも協力し合って色々な取り組みを行っていると思う。		今後も現状通りの取り組みを行っていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防訓練では、消防局の方からの指導を受けたりしているものの、まだ関わりが希薄のように思っている。	○	ボランティアの方に、民謡や大正琴に来て頂いたりすると、メリハリのある一日になるのではないか？と思われる。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居希望の方など、地域のケアマネジャーから情報を得たり、話し合いを行っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	支援センターから栄養指導をして頂いたり、専門的な知識を教えて頂いている。		今後も現状通りの取り組みを行っていきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じて、往診・受診を通じ、体調の変化の早期発見及び、健康管理に努めている。		今後も現状通りの取り組みを行っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じて、専門医に受診して頂き、適切な治療に繋がっている。		協力医師である為、常に連携を保ち、指示を仰いで頂くよう促していく。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	何らかの特変があった場合、看護職員に相談しながら健康管理を行っている。		今後も、日常の健康状態を把握し、少しでも特変に気づき、すぐ対応できるよう、相談を行っていききたい。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	常に面会・お見舞い行き情報を聞いたり、時にはソーシャルワーカーと連携を保っている。又、退院の時期が分かれば、職員緊急ミーティング開き退院に備えて話し合いを行っている。		今後も現状通りの取り組みを行っていききたい。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	方針がまだあやふやな状態である。今の所は医療行為での生活がやむを得ない状態になった場合、家族の方・職員・医師と話し合いを行っている。	○	重度化・終末期に向けた方針を今一度話し合いを設け、全職員が共有できるように努めていききたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度の方への取り組みとして、出来る事・出来ない事を把握し、主治医への報告は行っている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族の方・ケア関係者へは情報交換行っている。又、逆に当ホームへ移り住まわれる際も同様で行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1.その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉掛けは、とても大切だと思っている。利用者を尊重するような声掛けをするように心掛けている。	○	まだまだ言葉掛けについては、心にゆとりを持ち、利用者との接し方をもう一度考え注意していきたい。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定が足りないように思う。「どれでもいい」「何でもいい」と固体が返ってくる。	○	時間をかけてでも良いので、わかりやすく説明を行い、利用者が納得された生活が出来るように支援していきたい。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースになりがちではあるが、ゆっくりと過ごして頂くように努めている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その人らしさ、失われる事なく、要望があれば家族様対応にて行っている。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	実施できている。一人ひとりの方に合わせた支援が行えている。	○	今後も同様に行っていきたい。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員が選ぶことが多いように思うが「食べたいものはないですか？」と聞いて希望に添えるようには努めている。	○	自己決定と同じく、要望には耳を傾けたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握し、時には、尿取りパットなどを外す等の対応を行っている。		今後も現状通り行っていきたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ほとんど職員側で決めている為、利用者の希望には添えていないと思う。	○	勤務体制時間を考慮すると、一人ひとりの希望に合わせた入浴は、厳しい面もあるが、入浴を楽しめるように努めたいと思っている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割等を持っておられる人もいますが、気晴らし等に対する支援は少ないように思う。	○	一人ひとりの生活歴をもっと把握し、理解していき、楽しみや、気晴らしが出来るように取り組みたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じ、所持されておられる利用者もおられ、毎日、数えておられる。御本人が好まれるものも、このお金から支払われる。	○	他の利用者の方へ「お世話になっているから…」と言われる、1000円を渡されたりされている為、傷をつけないような言葉掛けを行い説明している。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員が付き添って、庭先程度の外出は支援している。(水まき・洗濯干し)	○	最近買い物レクが行っていないように思われる為、体調等を考え実施したい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の方と出掛ける事が可能な方は外出されている。近場であれば、お花見やドライブには皆さんと行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今年の年賀状は御本人直筆にて送らせて頂く。利用者が希望される時には、電話にも出られ、お話をされる時もある。	○	手紙を出したり、電話に出られてりする機会をもっと増やし、ご家族様との触れ合いを行っていききたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は決めずにいつでも自由に訪問頂くようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	出来る限り、身体拘束をしないように取り組んでいると思う。やむを得ない場合のみ、御家族様に説明している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	危険防止の為、1F～2Fの間のドアには鍵をかけているが、御家族様には、説明している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	見守り不足で転倒された事が重なり、職員で今後の対応を話し合うなど取り組みを行っている。	○	取り組みだけでなく、十分に理解し、実際実行するように努めたい。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	自室押入れ上の段に必要でないものを置いていたら、御本人が椅子を持ってこれそれに乗り、取ろうとされていた。危険防止の為、保管・管理を行っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	火災訓練は、行っている。研修等参加しているが、まだ、知識的に不十分である。	○	事故防止の為に、一人ひとりの状態に合わせた知識等を学んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時マニュアルは作成してはいるが、定期的な訓練という段階ではまだ実際に行っていない。	○	急変や事故発生時の応急手当の実践・訓練を行っていききたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練等行い、利用者が避難できる方法は、身につけているが、地域の方々への協力等は、得ていない。	○	職員同士話し合い、御家族様へも、説明を行っていききたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時等で、今後起こり得る問題点は、説明し、今後の職員のケアの仕方も一緒に説明している。	○	職員同士話し合い、御家族様へも、説明を行っていききたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	実施できている。一人ひとりの体調の変化や異変には、早期発見し、場合により、主治医へ連絡し、指示を仰いでもらう。	○	今後も、注意観察し、努めていきたい。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援は、一覧表を作り、特に気をつけているが、副作用までの理解は不十分だと思われる。	○	一覧表を作りなおし、それを職員が理解をし、努めていきたい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事や、おやつメニューを考慮し、働きかけを行っている。又、腹部マッサージを行っている。	○	今後も今までと同様に働きかけたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じ、自力でケアされる方には、見守りのみ、一部介助が必要な方には、それに応じた対応を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜や肉を小さめに切り、食べやすくしているが、全体的に、食事の摂取量が多いように思う。水分量は、利用者に合わせ対応出来ている。	○	栄養バランスを考慮したうえで、少々、少なめに対応しても良いのでは？と思われる。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	うがい・手洗いを励行している。インフルエンザの予防接種は、利用者・職員の全員が行っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	定期的に台所・調理用具等の消毒を行い、食材も、新鮮で安全なものを購入している。	○	研修で学んだ事を実施し衛生管理に努めたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには、プランターを置き、堅苦しくない作りの工夫を行っている。		季節の花等を植え出入りが気持ち良くできるよう取り組んでいきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた雰囲気作りに心掛け不快がないような配慮をしている。		季節感の物も利用者の方々と工夫して作っていき、皆さんの家であるように対応支援していきたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳間がある為、思い思いに生活されている。又、仲の良い利用者同士は、よく一緒に過ごされている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや、好みのものを使用されている方もおられる。又、季節に合わせた衣替えをしている。月ごとに合わせた飾りを一緒に作り、ドアに貼ったり、玄関先に飾っている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	体調や利用者の発汗・体熱感等を観察しながら、温度調節・換気を配慮し、十分に行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを設置している。車椅子対応時、トイレ内が狭く感じる。	○	転倒防止に取り組む為に、環境整備に心掛けている。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室・トイレ等には、分かりやすいように表示している為、混乱や失敗は見られず、自立して暮らしておられる。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天気のよい日には、玄関前の庭へ出られる。行事等も行っている。	○	季節を味わえるように花を一緒に植えたい。

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
		○	たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
		○	少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		ほぼ全ての職員が
		○	職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
		○	家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員が元気で明るい為、利用者の方も元気で明るいと思う。逆に利用者の方が明るい為、職員も明るいのかもしれない。一緒に考え、一緒に学びいつも笑顔があると思っ
ている。利用者の思いを大切に、快適に生活して頂けるように努力している。施設全体としては、バリテーション・タクティールケア・学習療法の支援にも取り組んでお
り、生活の質への努力している。学習療法については、全員が正しい知識を身につけ取り組んでいる。